

# 足利風 -ashikaga-fu

2016  
10月号  
Vol. 46



絵：あべ あやこ

## 足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- \*特集！
- \*TOPICS
- \*私のボランティアことはじめ
- \*サークル紹介
- \*インフォメーション
- \*センターからのご案内

## \*“病(やまい)”は“市(いち)”に出せ\*

「“病(やまい)”は“市(いち)”に出せ」という、心震わせる美しい言葉に出逢ったのは、自殺希少地域(自殺率が全国一少ない地域)である徳島県海部町(現・海陽町)のレポートを読んでいる時だった。町の先達から言い習わされている格言である。“病(やまい)”とは、たんなる病気のみならず、家庭内のトラブルや家業の不振、生きてゆく上でのあらゆる問題を意味している。“市(いち)”というのは、公開の場～世間・町の中を指す。この言葉には、リスクマネジメントつまり、やせ我慢や虚勢を張り、事態をより悪化させてしまうことへの戒めが込められている。悩みやトラブルを隠して自分一人で耐えるよりも、思い切ってさらけ出せば、妙案を出してくれたり、援助の手が差し伸べられるかも知れない。だから、取り返しのつかない事態に陥る前に、周囲の人に相談せよ！という教えなのだ。また、海部町の大きな特徴としては、住民だれもがいつでも気軽に立ち寄れる場～時間を気にせずに腰かけていられる場、そこに行けば必ず誰か隣人と会って世間話ができる場、新鮮な情報をお互い持ち込んだり、広げたりすることができる場が、数多く存在することがある。まさに、“サロン機能”を数多く有する地域コミュニティなのだ。地域における“サロン機能”の持つ役割は大きい。そこに行けば誰とでも隣人とおしゃべりが出来るし、役に立つ情報も手に入るし、ちょっとした愚痴も聞いて



もらえ気晴らしができる。孤独や孤立を感じる事が少なくなる。生き心地の良い地域の必須の条件としては、こうした“サロン機能”を持つ場や、日常生活に欠かせない商店・診療所・役場などの社会資源に、高齢者などの住民が“いつでも・だれでも・自分が行きたいときに・自分の力で”行けるということが重要なのだ。これら2つの特徴以外にも、“いろんな人がいたほうがいい”という多様性尊重・等々、自殺希少地域・海部町の試みは、私たちのまちづくりにも大きな示唆を与えてくれる、と思う。

(M生)

## \*「まちの縁側」報告\*

8月20日(土)午後、足利市民活動センター3F みんなの広場で、絵本「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」の読書サロン“まちの縁側”が行われた。20名ほどの参加者は、案内人の中学1年生小林夏実さんと篠崎健太郎くんのリードで、和気あいあいと楽しく、そして奥の深い時間を過ごした。

「本当の貧しさとは、現代人の無限の欲望にある」というムヒカ大統領の言葉は、金銭至上主義・高度消費社会への警告であり、われわれのライフスタイルや心の在り方への警鐘でもある。13歳の少女が、この本から一番に感じたのも、この言葉だった。多彩な年代の参加者たちが心をつなげて語り合う、という“まちの縁側”ならではの場面が展開された。とても感銘を受けた。

## \* らくごのらく \*

～足利落語研究会代表 渡良瀬亭 仲橋～

社会の迷惑も顧みず、“落語のようなもの”を演じて38年。相変わらずのラクゴ者です。江戸の元禄期から続く庶民の娯楽である落語。この日本の伝統芸の原型は、僧侶の説経である「節談説経」であるとか。僧侶が信者を飽きさせないように、有り難いお経を、物語として笑わせたり泣かせたりしながら聴かせたのが始まり。話の山場では節をつけて唸る、これが浪花節に、語りの部分が講談に、そして面白おかしい部分が落語に発展したと言われています。



ところで、落語に登場するのは、熊さん、八つあん、長屋のおかみさん、与太郎、若旦那、ご隠居、大名、武士などなど。古典落語は、私たちの生活の中のちよつとした笑いを誇張し、面白いものにして、ストーリーを作り上げ、長年かかってできたもの。その根底にあるのは、誰にでもあること、多くの人々の共感を呼ぶこと。観客は、「あー、あんなところ自分にもあるかな」「あー、あんなやついるな」と、そこに自分、あるいは家族や友人、職場の同僚など誰かの姿を発見。その“肯定”や“共感”から生まれる笑い、それが落語の笑いなのです。「落語とは、人の業の肯定である」とは、立川談志師匠の名言。チト難しいですね。

ま、とにかく、笑いは健康のもと。笑いには万能の治癒力があります。大笑いできる人は病気になりにくいとか。一日一笑で一生健康。

皆さんも「笑点」の“大喜利”だけでなく、“落語の娯楽”をぜひどうぞ。

落研の出前寄席のご注文も受付中です。謝礼は不要。皆さんへの“慰謝料”を用意してお伺いいたします。お後がよろしいようで。

---

## \* “楽しい絵手紙・自分流！”～「足利絵手紙の会」\*

誰の真似でもない・誰も真似できない・自分流で良い・自分らしさが良い・・・「足利絵手紙の会」のモットーです。活動は、研修センターを会場に、毎月第一月曜日・第三金曜日の2回、午後一時から四時まで楽習しています。会員数45名。みなさん思い思いの画材を持ち寄り、楽しい楽しい時間を過ごします。また、毎年1回足利市民活動センター3階みんなの広場で、作品展を開催。200名を超える市民のみなさんに観ていただいております。

※連絡先：☎0284-42-9100(新島)

## ① インフォメーション ①

### ☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

★10月1日(土) AM10:00～12:00

\* 本 : 絵本 ガブリエル・バンサン「アンジュール～ある犬の物語」

\* 案内人: 鈴木光尚さん

\* ひとこと: “30年前に出版されたベルギーの女流絵本作家による鉛筆デッサンだけの感動作です。一読して魅了されたことを覚えています。

捨てられた犬が、やがて一人ぼっちの少年と出会うまでの一日を描いた物語。現在、絵本カフェなどが増え、絵本に癒される大人たちも多くなっています。この一冊の絵本を手がかりに、いまを生きる私たちの日々を語り合ってみませか。”

★11月10日(木) PM2:00～4:00

\* 本 : 水上 勉「良寛」

\* 案内人: 白田 明さん

\* ひとこと: “一度は禅僧として出家しながらも寺を去り、無一物での乞食生活を送りながら多くの和歌や書を残した良寛。その良寛の物心とともに余分なものを何一つ持たず、風のように生きた生き様を、あえて家族や知己との関わりから描き、その孤高の生涯を浮かび上がらせている傑作です。無心に子どもたちと遊ぶ姿を、水上 勉は、良寛の本質ととらえている。”

■会場: 足利市民活動センター

☎44-7311



過日の「木彫仏像展」の後に、作者の山口千二さんより、足利市民活動センターに黒柿の親子地藏尊が寄贈されました。山口さん、ありがとうございました。感謝申し上げます。

## \* センターからのご案内 \*

### ☆みんなの広場 ～ 10月・11月のご案内 ～

- \* 魅惑の古時計 展 ( 9月26日 ～ 10月 6日)
- \* パッチワーク 展 (10月11日 ～ 10月20日)
- \* 足利絵手紙の会 展 (10月24日 ～ 11月 2日)
- \* 足利風表紙イラスト原画 展 (11月 7日 ～ 11月17日)
- \* 川島直人水彩画作品 展 (11月21日 ～ 12月 1日)

Facebook の  
QR コード



### ☆相談室 & 講座のご案内

- \* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照
- \* 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

## 編集後記

活動センターの職に就いて8カ月になるが、新しい出会い、再会ありの連続である。人は「何処でどう繋がっているのかわからない。悪いことはできない。」とよく言うが、本当その通りだ。『天知る、地知る、我知る、人知る』ちゃんと生きようと思った。(ブリーオ)